

今日のトピック 最近の指標から見る欧州経済(2015年5月) 景気の緩やかな回復でデフレ懸念後退へ

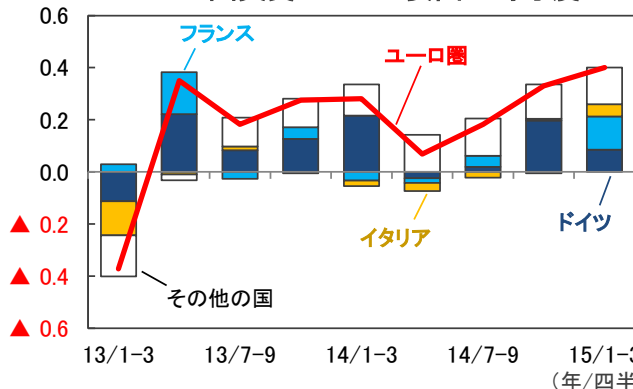
ポイント1 景気は緩やかに回復

フランス、イタリアもドイツに追随

■ユーロ圏の1-3月期の実質GDP成長率は前期比+0.4%と、緩やかに加速しました。フランスやイタリアなど、回復が遅れていた国も上向き始め、ユーロ圏全体で回復色が強まっています。

■ドイツは、前期比の伸び率は縮小したものの、輸出の回復が生産へ波及し、所得の増加から個人消費も堅調で、経済の好循環が強まっています。

(前期比、%) ユーロ圏実質GDPと主要国の寄与度



(注)データは2013年1-3月期~2015年1-3月期。
(出所)Eurostatのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

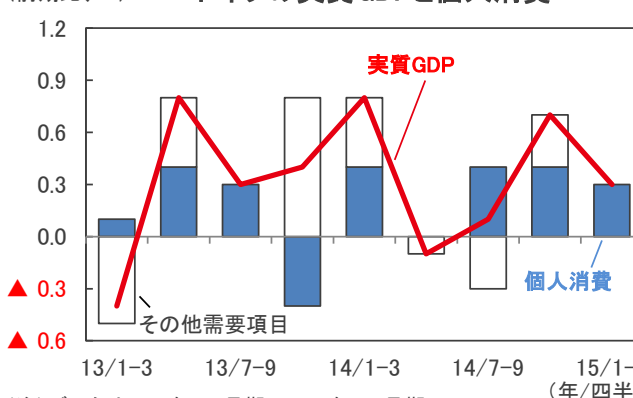
ポイント2 デフレ懸念は後退へ

経済の好循環が物価にも波及

■欧州の景気回復を先導するドイツでは、デフレ懸念が足元で後退しています。原油価格が落ちついてきたことやユーロ安により食料品価格が上昇していることが背景です。

■ドイツでは、堅調な消費を背景とした経済の好循環の影響が物価にも表れ始めており、ユーロ圏の物価も上向くことが持続する見込みです。

(前期比、%) ドイツの実質GDPと個人消費



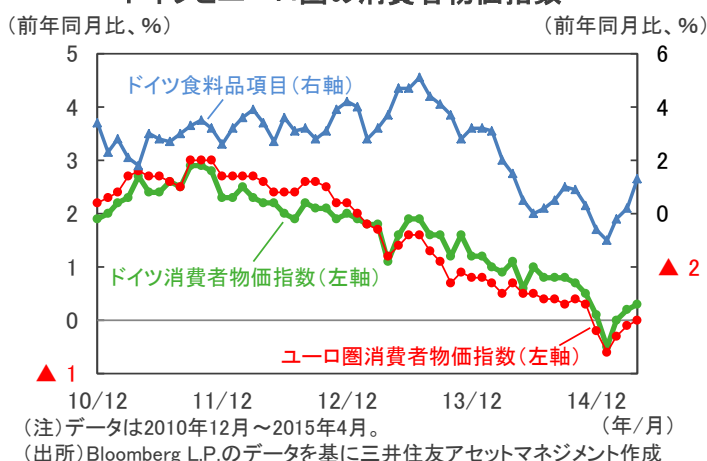
(注)データは2013年1-3月期~2015年1-3月期。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 金融緩和の継続により、 景気の緩やかな改善継続

■欧州景気の回復は、欧州中央銀行(ECB)の金融緩和の効果が徐々に表れ始めているためと見られます。ECBは、物価が目標とする2%近くに達することが見通せるまで、現在の国債購入プログラムを継続する方針であり、金融緩和が引き続き欧州経済を下支えしそうです。

■ただし、不透明感が高まるギリシャ問題やスペインでのユーロ離脱を掲げる政党の増勢などの欧州統合に向けた求心力への懸念要因、フランスやイタリアの財政健全化の進捗などには注意が必要と見られます。

ドイツとユーロ圏の消費者物価指数



(注)データは2010年12月~2015年4月。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2015年05月14日 「ギリシャ問題」合意にはなおギャップ(欧州)
2015年04月16日 ECBは現行の量的緩和を継続

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。